

平成25年度

# 市内遺跡発掘調査等事業報告書

2015

甲州市教育委員会

平成25年度

# 市内遺跡発掘調査等事業報告書

2015

甲州市教育委員会

## 序

甲州市は塩山・勝沼・大和の各地域からなりますが、それぞれが独自の歴史文化を築いてきたため、豊富な文化資源に恵まれている市です。

遺跡についても同様で、市内には勝沼氏館跡・甲斐金山遺跡（黒川金山）の二つの国指定史跡が所在し、他にも多くの遺跡が眠っています。

本書は、平成 25 年度に国庫補助事業として実施した、市内遺跡発掘調査等事業にかかる報告書です。25 年度は 6 地点の遺跡について試掘調査等を行っています。

今後も市内遺跡の保護保存が図られるよう、国・県のご指導もいただきながら、発掘調査事業を進めていきたいと考えておりますので、関係各位には一層のご協力をお願い申し上げます。

平成 27 年 3 月 31 日

甲州市教育委員会

教育長 保坂 一仁

## 例 言

- 1 本書は、平成 25 年度市内遺跡発掘調査等事業にかかる実施報告書である。
- 2 事業は、文化庁の国宝重要文化財等保存整備費補助金により行った。
- 3 事業の期間は、平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日までである。
- 4 本書にかかる出土品、図面、写真等の記録類は、甲州市教育委員会で保管している。

## 凡 例

- 1 本書中、各遺跡の調査地点を示した図（4 ページ）は国土地理院発行の 1/50,000 地形図（御岳昇仙峡、丹波）を改変して使用した。
- 2 縮尺、方位等は各図中に示してある。
- 3 挿図は、遺跡ごとに連続する番号を付した。

## 目 次

序

例言・凡例・目次

第 1 章 遺跡の所在確認業務について……………	1
第 2 章 発掘調査等について……………	1
第 3 章 発掘調査等の概要……………	2
第 1 節 事業費……………	2
1 事業経費収支予算書……………	2
2 事業経費収支精算書……………	3
第 2 節 発掘調査等……………	5
1 小山平南遺跡……………	5
2 西畑 A 遺跡……………	23
3 本立寺跡……………	27
4 金山遺跡……………	29
5 子安 1300-1 他……………	32
6 重郎原遺跡……………	35

抄録・奥付

## 第1章 遺跡の所在確認業務について

平成25年度の甲州市教育委員会における文化財関係組織は、次の通りである。

保坂一仁 甲州市教育委員会教育長  
山中 宏 教育委員会生涯学習課長  
小野正文 生涯学習課文化財指導監  
飯島 泉 生涯学習課文化財担当リーダー  
入江俊行 生涯学習課文化財担当  
北井靖人 生涯学習課文化財担当

開発計画に伴う遺跡の所在確認と、不動産鑑定に伴う遺跡の所在確認については、25年度は245件を数えた。内訳は、開発計画に伴うもの198件、不動産鑑定に伴うもの47件であった。

## 第2章 発掘調査等について

遺跡の所在確認後、周知の包蔵地内において具体的な開発行為の計画がある場合について、文化財保護法第93条及び94条の届出を提出していただき、一部は甲州市教育委員会で工事立会いとし、6件については試掘調査を実施した。

発掘調査等の体制は次の通りである。

発掘調査担当者 入江

発掘調査・整理作業員 雨宮久美子・安藤みさを・栗原礼子・田中悦子・土屋晴子・萩原里江子・  
廣瀬さとり・正木なつ子・三森豊子

### 第3章 発掘調査等の概要

#### 第1節 事業費

##### 1 事業経費収支予算書

###### 収入の部

	金額	備考
国庫補助金	1,500,000円	3,000千円の50%
県費補助金	577,000円	3,000千円の25%以内
甲州市負担金	923,000円	
計	3,000,000円	

###### 支出の部

	金額	備考
報償費	0円	
旅費	0円	
賃金	1,600,000円	発掘160日×7,000円、整理80日×6,000円
需要費	549,500円	
消耗品費	50,000円	調査・整理消耗品
印刷製本費	499,500円	報告書1,500円×300冊×1.05、その他DPE、コピー等
役務費	0円	
委託料	0円	
使用料及び賃借料	850,500円	機械借上げ31,500円×27日
計	3,000,000円	

## 2 事業経費収支精算書

### 収入の部

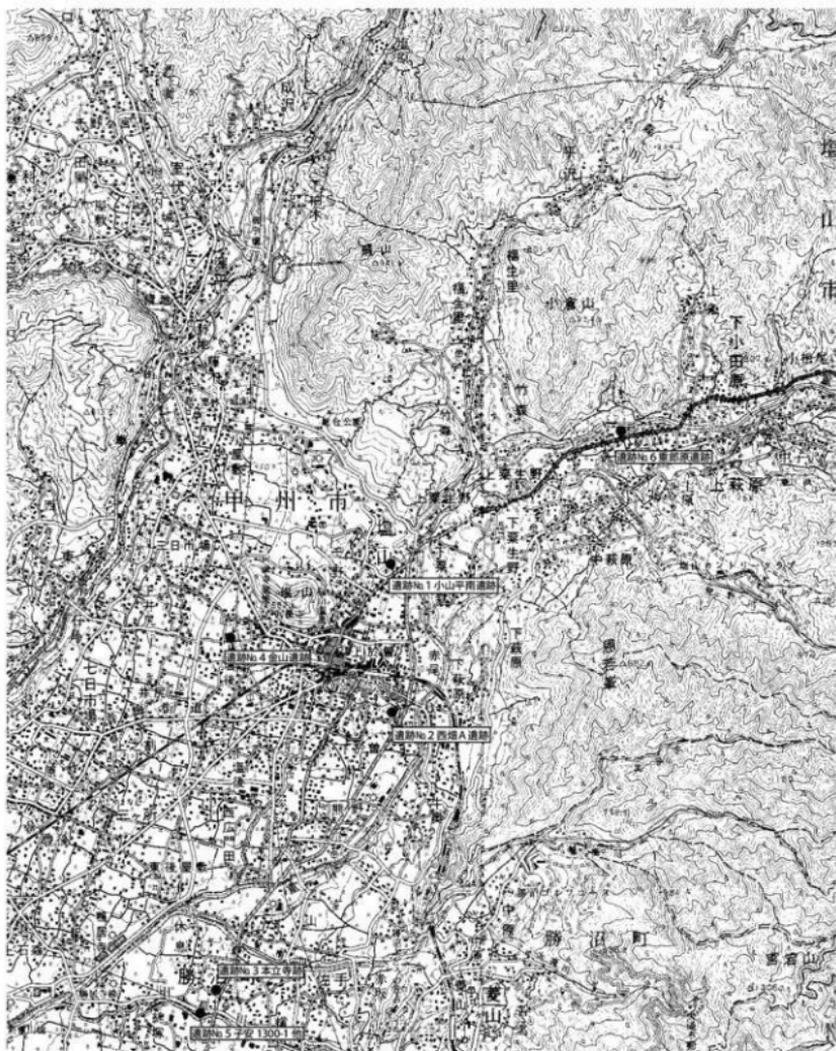
(上段：精算額 下段：予算額)

	金額	備考
国庫補助金	1,095,000 円	3,000 千円の 50%
	1,500,000 円	
県費補助金	547,000 円	3,000 千円の 25% 以内
	577,000 円	
甲州市負担金	549,553 円	
	923,000 円	
計	2,191,553 円	
	3,000,000 円	

### 支出の部

(上段：精算額 下段：予算額)

	金額	備考
報償費	0 円	
	0 円	
旅費	0 円	
	0 円	
賃金	1,478,000 円	発掘 125 日×7,000 円、整理 100.5 日×6,000 円
	1,600,000 円	
需要費	398,553 円	
	549,500 円	
消耗品費	36,303 円	ポリ袋、てみ、竹串、篩、セメダイン、三脚、LED ライト他
	50,000 円	
印刷製本費	362,250 円	平成 24 年度市内遺跡発掘調査等事業報告書
	499,500 円	
役務費	0 円	
	0 円	
委託料	0 円	
	0 円	
使用料及び賃借料	315,000 円	重機借上げ 315,000 円
	850,500 円	
計	2,191,553 円	
	3,000,000 円	



平成25年度市内遺跡発掘調査地点

## 第2節 発掘調査等

### 1 小山平南遺跡

- (1) 所在地 甲州市塩山千野字小山平 595-1
- (2) 調査面積 約 99.5㎡
- (3) 調査原因 宅地造成
- (4) 調査期間 平成 25 年 5 月 7 日～6 月 4 日
- (5) 調査結果

当地は重川右岸の段丘上に立地し、縄文・平安時代の遺物散布地である小山平南遺跡の包蔵地内に含まれる。東方には平成元・二年に山梨県埋蔵文化財センターにより発掘調査が行われた縄文前期、奈良・平安時代の集落遺跡である獅子之前遺跡が存在する。

当初、敷地内の西側に南北方向の試掘坑（Aトレンチ）を設定し、掘削を行ったところ、地表下約 50cm の深さで遺物包含層を検出し、精査の結果、遺構とみられる落ち込みも確認でき、遺跡の存在が明らかとなった。そのため、事業者と協議を行い、遺跡の破壊が想定される進入路部分に対し、新たに調査区を設けて発掘調査を実施することとした（Bトレンチ）。

#### Aトレンチ

Aトレンチは約 20.7m × 1.2m で設定した。重機により地表下約 50cm の深さまで掘削したところ、土器片などを含む遺物包含層を検出したため、人力により包含層を掘削しながら遺構確認を行なったところ、竪穴住居跡 2（1・4 住）、溝 1（2 溝）、流路 1（3 溝）を検出した。

1 号住居は Aトレンチの北端に位置し、調査区外に延びるため規模は不明だが、調査区内での最大径は約 3.5m を測り、円形ないし楕円形の平面形を呈すると考えられる。遺構確認面から約 30cm で床面に達し、壁面はゆるやかに立ち上がる。炉・周溝・ピットは検出されておらず、住居と判断できる材料が乏しいが、規模から住居跡と判断した。遺物は縄文前期（諸磯式）の土器小片（11・12・16）や、有孔浅鉢の破片（18・19）などが出土している。

4 号住居は Aトレンチの南半に位置し、南側の一部を 2 号溝に切られる。東西は調査区外に延びるため規模は不明だが、調査区内での最大径は約 4.5m を測り、円形ないし楕円形の平面形を呈すると考えられる。遺構確認面から約 55cm で床面に達し、壁面はゆるやかに立ち上がる。炉・周溝・ピットは検出されていないが、遺構の規模から住居跡と判断した。遺物は縄文前期（諸磯式）の深鉢など（28・34・35）が出土している。

2 号溝は Aトレンチの南端に位置し、北東から南西方向へ直線的に走る溝で、長さ約 2.6m、幅約 90 ～ 130cm を測り、両端は調査区外へ延びる。北東方向の延長部分は、隣接する Bトレンチからは検出されていないため、途中で終了するか、屈曲するものと考えられる。遺構確認面から約 30cm で底面に達する。出土遺物は縄文土器片、土師器環、須恵器片等が出土しており、平安時代の遺構と考えられる。

3 号溝は Aトレンチ北半に位置し、覆土に多量の砂を含んでおり、流路跡と考えられる。溝の東西は調査区外に延び、確認された長さ約 130cm であるが、幅約 100 ～ 390cm と不定形な平面形を呈する。深さは約 10 ～ 45cm と一定していない。遺物に近現代の陶磁器片などが含まれることから、近代以後の遺構と考えられる。

#### Bトレンチ

Bトレンチは約17.4m×4.0mで設定した。重機により地表下約40～50cmの深さまで掘削したところ、土器片などを含む遺物包含層を検出したため、人力により包含層を掘削しながら遺構確認を行なったところ、堅穴住居跡2(2住・3住)、溝2(1溝・4溝)、土坑7、ピット(小穴)21を検出した。

2号住居はBトレンチの中央に位置し、1号溝と1号土坑に切られ、5号土坑を切る。約3.9×3.5mの規模で平面形は方形を呈しており、西側の一部は調査区外に延びる。遺構確認面から約20cmで床面に達し、壁面は急な立ち上がりである。カマドは検出されていない。遺物は床面付近から完形に近い土師器環を数個検出しており、平安時代(9世紀代)の遺構と考えられる。

3号住居はBトレンチの南端に位置し、北側に一部壁面の立ち上がりを検出したのみで、正確な規模および平面形は不明であるが、直径3.7m以上はあり、南側は調査区外に延びる。1号溝と7号土坑に切られる。遺構確認面から約10cmで床面に達する。14～20ピットは柱穴と考えられるが、炉・周溝等は検出されていない。遺物は縄文中期前半(沼沢・新道・藤内式)のものが集中して出土している。

1号溝はBトレンチの南半分に位置し、北東から南西方向に直線的に走る溝で、2・3号住居を切り、両端は調査区外に延びる。長さ約12.8m、幅約46～73cmを測り、遺構確認面から20～30cmで底面に達する。遺物は土師器裏片、坏片、須恵器片などで、平安時代の遺構と考えられる。

1号土坑は2号住居の北側に位置し、2号住居を切って構築される。約1.6×1.0mで楕円形の平面形を呈し、深さは約12cmを測る。遺物は縄文土器片、土師器片、須恵器片で、平安時代の遺構と考えられる。

2・3号土坑はBトレンチ北西端に位置し、調査区外に延びる。2号土坑は3号土坑を切って構築され、3号土坑は9号ピットを切る。2号土坑は約1.7×0.6mで推定楕円形を呈し、深さ約66cmを測る。断面は鍋底状。遺物は縄文中期前半の土器片が出土している。3号土坑は約1.9×0.9mで推定楕円形を呈し、深さ約22cmを測る。断面は鍋底状。遺物は縄文前期と中期の土器片が出土している。

4号土坑は2・3号土坑の東側に位置し、北東側を攪乱に切られる。規模は約1.0×0.9mで、深さ約9cm、平面形は推定楕円形、断面は鍋底状を呈する。遺物は沼沢式の深鉢胴部片(20)が直立した状態で出土している。

5号土坑は2号住居の南東側に位置し、2号住居と1号溝に切られる。規模は約0.8×0.7mで、深さ約48cm、平面形は推定円形、断面はボール状を呈する。遺物は縄文前期と中期の土器片が出土している。

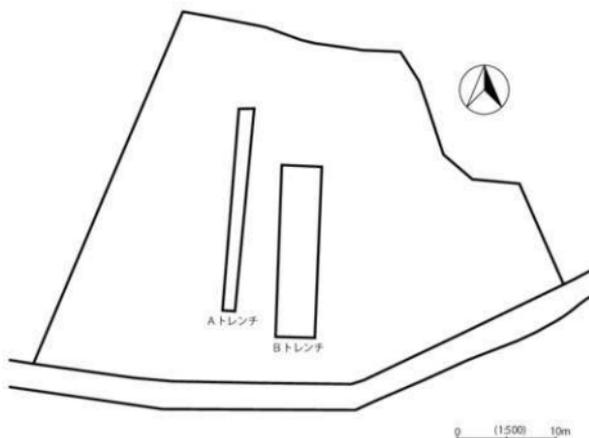
6号土坑は5号土坑の南東側に近接した位置にあり、7号土坑を切る。規模は直径約1.0×1.0mで、深さ約40cm、平面形は円形を呈する。断面は鍋底状であるが、南西側壁面は15cm程度オーバーハングしている。遺物は縄文中期の土器片が出土している。

7号土坑は6号土坑の南側に位置し、3号住居を切る。規模は約1.5×0.6mで、深さ約30cm、平面形は長楕円形を呈する。断面はボール状であるが、西側壁面が10cm程度オーバーハングしている。重複関係にある6号土坑と共通してオーバーハングがみられることから、6号土坑と同一の遺構である可能性もある。遺物は縄文前期・中期の土器片が出土している。

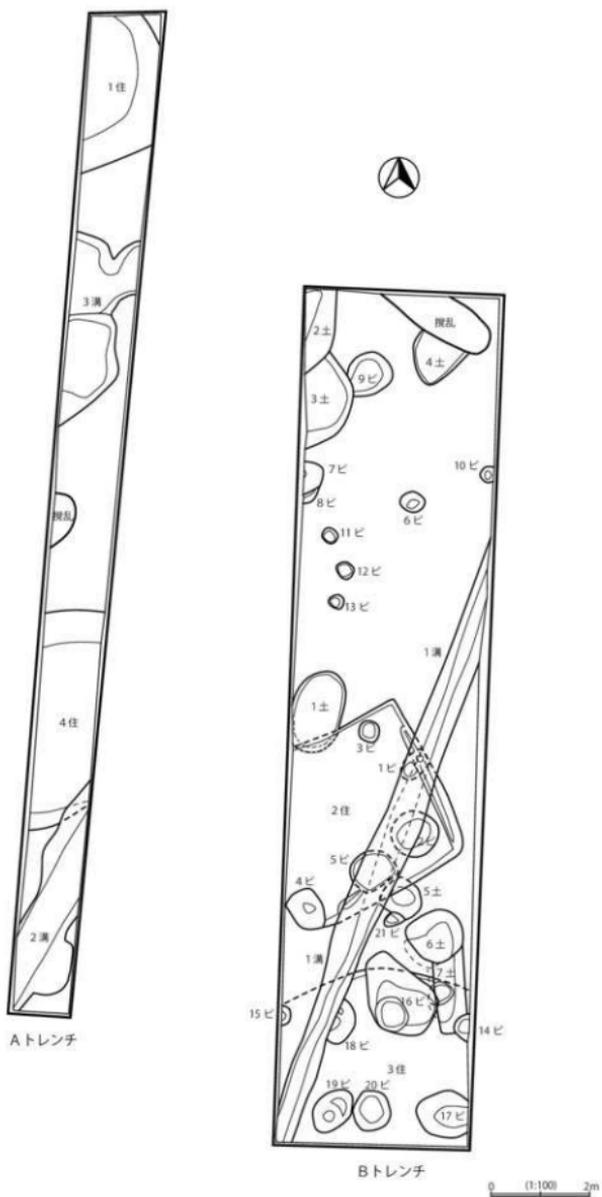
#### 遺物

調査区は約99.5㎡と狭小ながら、コンテナ(60×40×20cm)18箱分に相当する多量の遺物が検出された。1～7は土師器環、2号住居出土。1・3・4の底部に墨書や線刻の痕跡がみられる。8は土師器皿、表土中出土。9はかわらけ、包含層出土。10は深鉢の口縁～胴部、ミミズク把手、隆線上に連続爪形文、平行沈線がある。藤内式。3号住居出土。11は深鉢胴部、刻みのある扁平な浮線文、縄文LR。諸磯b式。

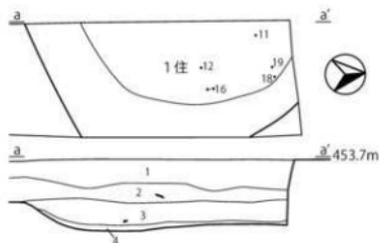
1号住出土。12は深鉢胴部、刻みのある断面半円形の浮線文がある。諸磯b式。1号住出土。13は深鉢の口縁部、三角押文、連続爪形文がある。17ピット出土。14は深鉢の口縁部、三角押文、連続爪形文がある。新道式。包含層出土。15は深鉢の口縁部で波状を呈する。3号住出土。16は深鉢の口縁部、縄文RLが施される。諸磯b式か。1号住出土。17は深鉢の胴部、三角押文、隆帯に沿って連続爪形文がある。新道式。3号住出土。18・19は有孔浅鉢形土器の口縁部、諸磯式。1号住出土。20は深鉢の胴部、隆帯に沿って角押文がある。貉沢式。4号土坑出土。21は小型の深鉢、沈線文、隆帯に沿って連続爪形文がある。藤内式。3号住出土。22は深鉢の胴部、三角押文、隆帯に沿って連続爪形文、沈線文がある。新道式。3号住出土。23は深鉢の底部、三角押文、隆帯に沿って連続爪形文がある。新道式。3号住出土。24は深鉢、三角押文、連続爪形文、隆帯上に刻みがあり、輪積痕が明瞭に残る。藤内式。3号住出土。25は深鉢の口縁部、波状沈線文、三角押文、輪積痕が明瞭に残る。縄文RL。藤内式。14ピット出土。26は深鉢、波状沈線文、連続爪形文がある。縄文RL。藤内式。3号住出土。27は深鉢の底部、波状沈線文、隆帯に沿って連続爪形文、縄文RL。藤内式。3号住出土。28は深鉢、縄文LRを全体に施す。諸磯b式か。4号住出土。29は土偶頭部、貫通孔を4箇所もつ。3号住出土。30は土偶胴部、脚部に刻み目がある。3号住出土。31は土偶胴部、中位に隆起する部分があり、その周りを角押文に似た文様がめぐっている。3号住出土。32はミニチュア土器の底部、沈線文、縄文LR。包含層出土。33は完形のミニチュア土器、縄文RLを全体に施す。3号住出土。34はミニチュア土器の底部～胴部、縄文RL。4号住出土。35は深鉢の底部、木炭痕が認められる。4号住出土。36は土製円板、縄文LR。19ピット出土。37は土鍾、包含層出土。



第1図 調査区位置図

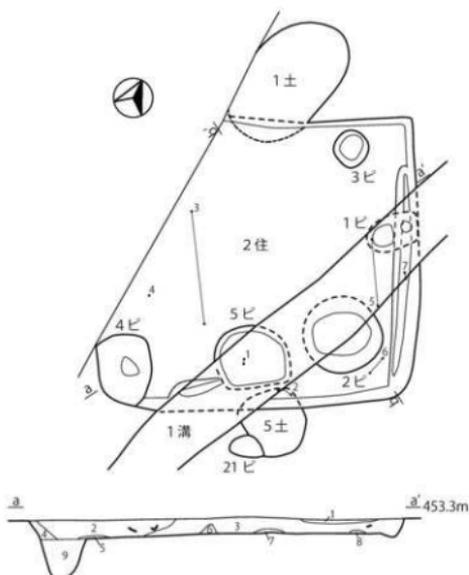


第2図 A・Bトレンチ平面図



1号住居

1. 暗褐色土 しまりあり、粘性あり、砂礫微量含む。表土。
2. 暗茶褐色土 しまりやや強い、粘性あり、砂礫微量含む。
3. 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。1住層土。
4. 暗茶褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量含む。1住層土。



2号住居 a-a'

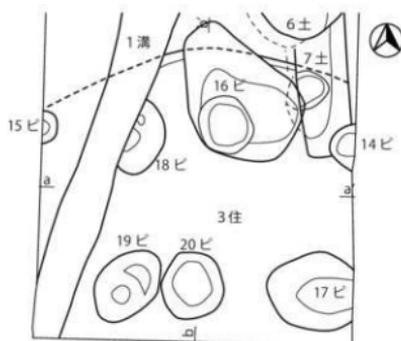
- |                              |                                      |
|------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 灰褐色土 しまりあり、粘性あり、砂粒を含む。    | 5. 暗灰青褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒含む。         |
| 2. 暗灰褐色土 しまりあり、粘性あり、砂礫微量含む。  | 6. 暗灰褐色土 しまりあり、粘性あり。ロームブロック含む。       |
| 3. 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒微量含む。 | 7. 黄褐色土 しまりやや強い、粘性あり。ローム主体。          |
| 4. 暗灰褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒ふくむ。 | 8. 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ロームブロック含む。        |
|                              | 9. 黒褐色土 しまりあり、粘性やや強い。4ピット(住居内ピット)層土。 |

2号住居 b-b'

- |                                 |                                 |
|---------------------------------|---------------------------------|
| 1. 暗灰褐色土 しまりあり、粘性あり、砂粒含む。1溝層土。  | 5. 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒微量含む。    |
| 2. 灰褐色土 しまりやや強い、粘性あり。ローム粒少量含む。  | 6. 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ロームブロック少量含む。 |
| 3. 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ロームブロック少量含む。 | 7. 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ロームブロック含む。   |
| 4. 灰褐色土 しまりやや強い、粘性あり。           | 8. 暗黄褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム主体。      |

0 (1:60) 1m

第3図 1・2号住平断面図



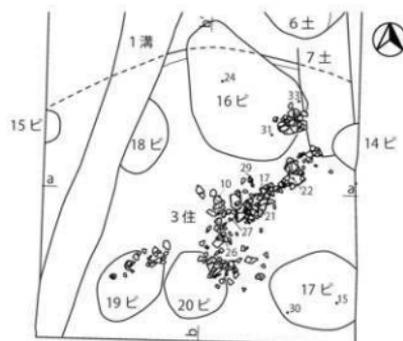
3号住部 a-a'

1. 暗灰褐色土 しまりあり、粘性あり、砂粒・ローム粒少量含む。1溝層土。
2. 黄褐色土 しまりやや強い、粘性あり、ローム主体。1溝層土。
3. 黒褐色土 しまりあり、粘性あり、礫層を含む。
4. 暗黄褐色土 しまりやや強い、粘性あり、ローム主体。
5. 暗灰褐色土 しまりあり、粘性あり。



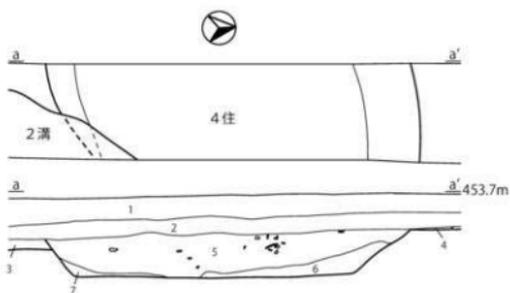
3号住部 b-b'

1. 黒褐色土 しまりあり、粘性あり、礫層を含む。
2. 暗黄褐色土 しまりあり、粘性あり、ローム粒多量含む。
3. 暗黄褐色土 しまりあり、粘性あり、ローム粒少量含む。
4. 暗黄褐色土 しまりあり、粘性あり、ローム粒含む。
5. 黒褐色土 しまりあり、粘性あり、砂礫層を含む。20ピット。
6. 黒褐色土 しまりあり、粘性あり、ロームブロック微量含む。16ピット。



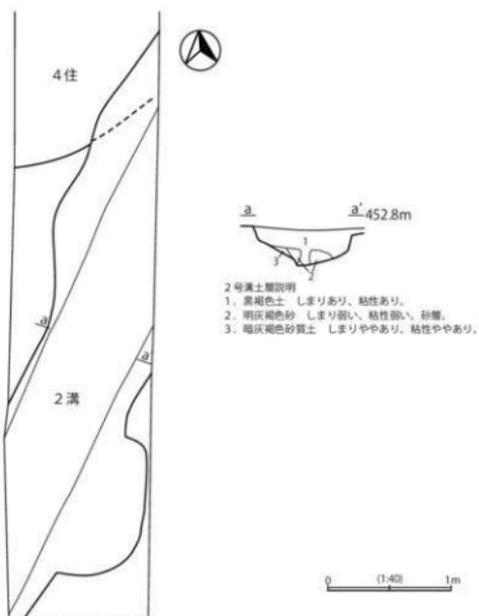
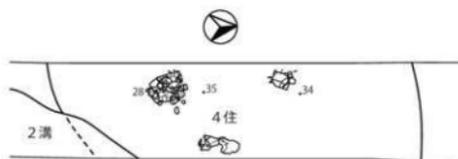
0 (1/60) 1m

第4図 3号住平断面図



4号住区

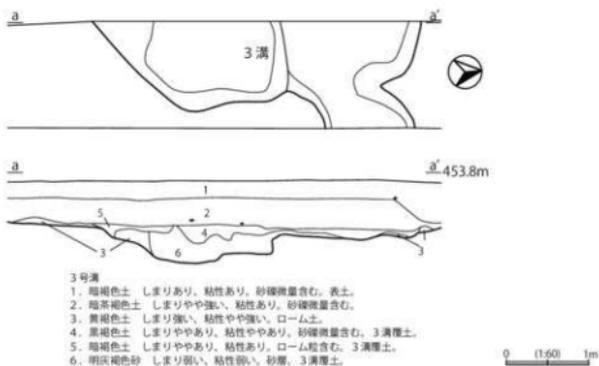
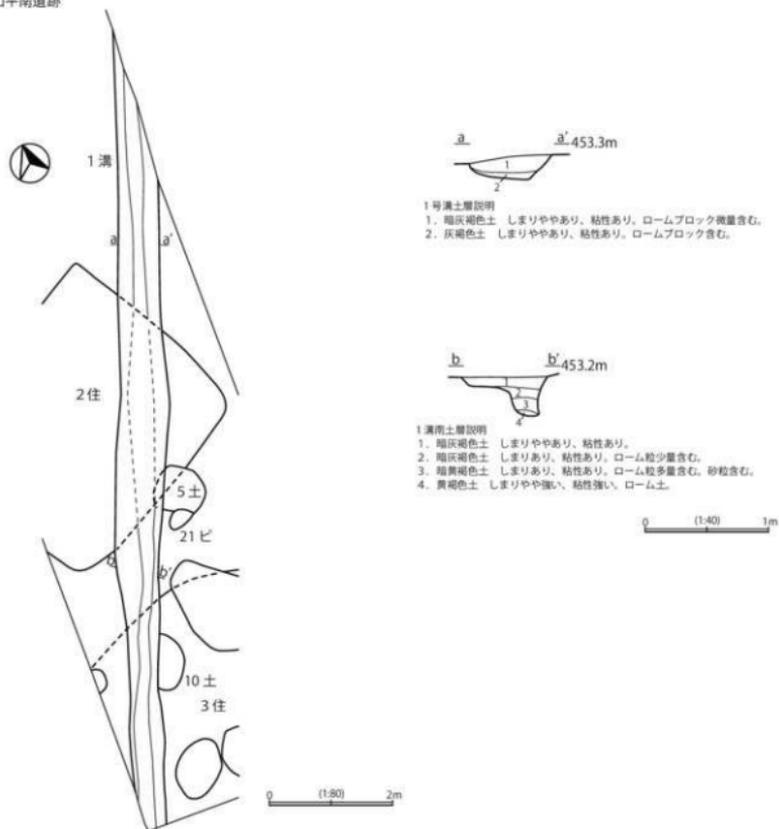
1. 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。砂礫微量含む。表土。
2. 暗茶褐色土 しまりやや強い、粘性あり。砂礫微量含む。
3. 暗黄褐色土 しまりやや強い、粘性あり。ローム粒含む。
4. 黄褐色土 しまり強い、粘性やや強い。ローム土。
5. 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒・砂礫微量含む。4号住土。
6. 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒含む。4号住土。
7. 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒含む。4号住土。



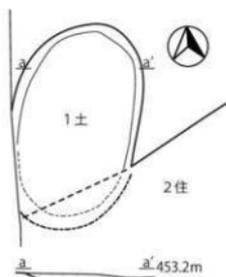
2号溝土層説明

1. 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。
2. 明灰褐色砂 しまり強い、粘性弱い。砂礫。
3. 暗灰褐色砂質土 しまりややあり、粘性ややあり。

第5図 4号住・2号溝平面図

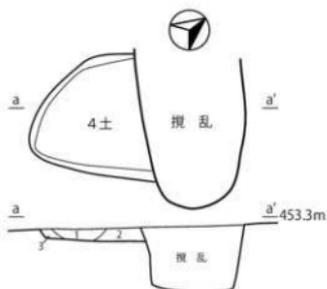


第6図 1・3号溝断面図



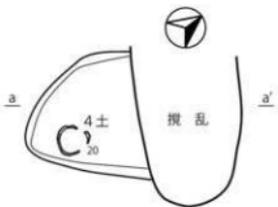
1号土坑

1. 暗灰褐色土 しまりややあり、粘性あり。
2. 黄褐色土 しまりやや強い、粘性あり。



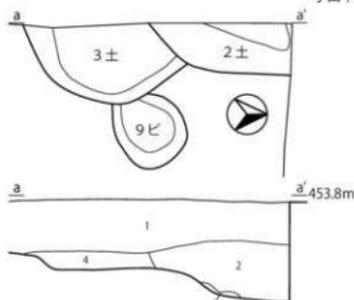
4号土坑

1. 黒褐色土 しまりややあり、粘性あり。
2. 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ロームブロック含む。
3. 暗黄褐色土 しまりやや強い、粘性あり。ローム主体。



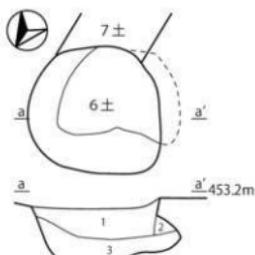
5号土坑

1. 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。砂礫少量含む。
2. 暗黄褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒含む。



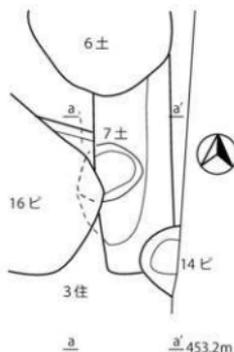
2・3号土坑

1. 暗茶褐色土 しまりあり、粘性あり。砂礫含む。表土。
2. 暗灰褐色土 しまりあり、粘性あり。砂礫微量含む。2土覆土。
3. 暗黄褐色土 しまりやや強い、粘性あり。2土覆土。
4. 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。3土覆土。



6号土坑土層説明

1. 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。砂礫微量含む。
2. 暗黄褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒含む。
3. 暗黄褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量含む。



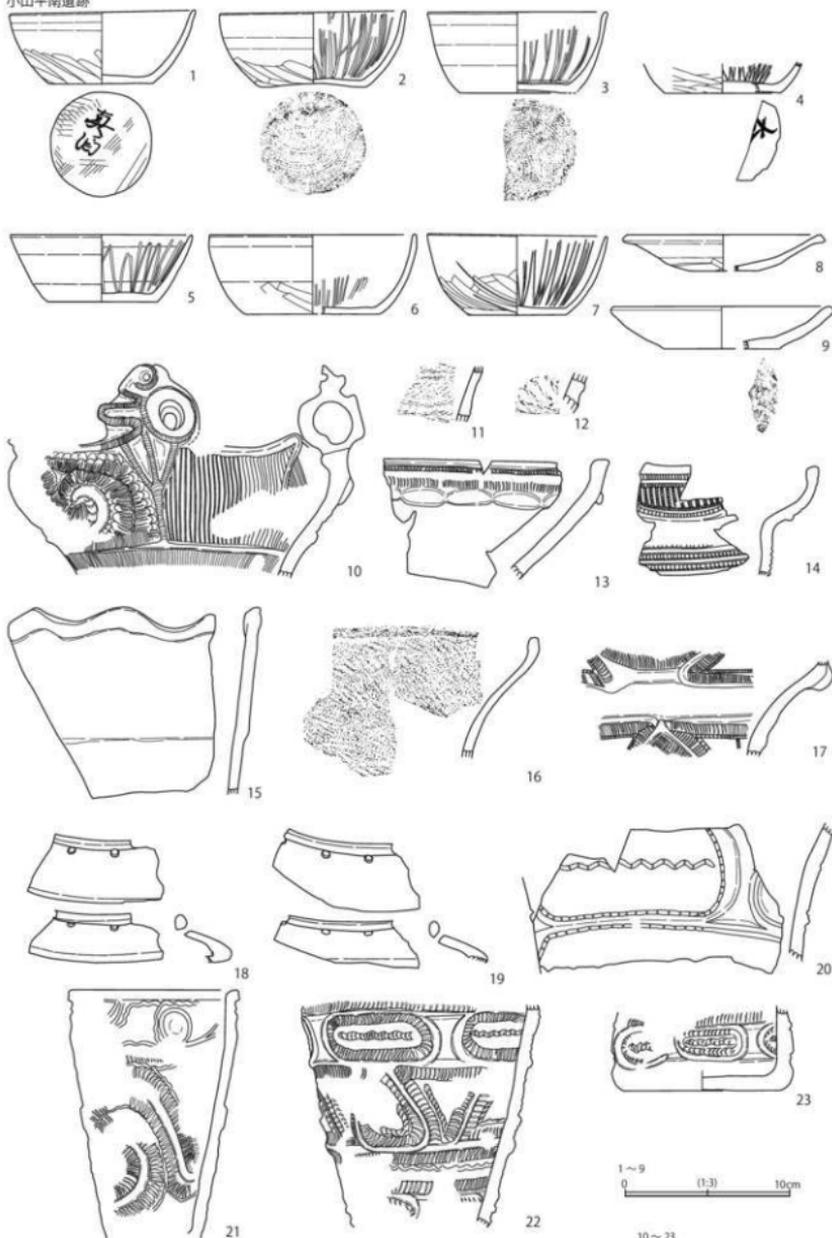
7号土坑

1. 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。砂礫少量含む。

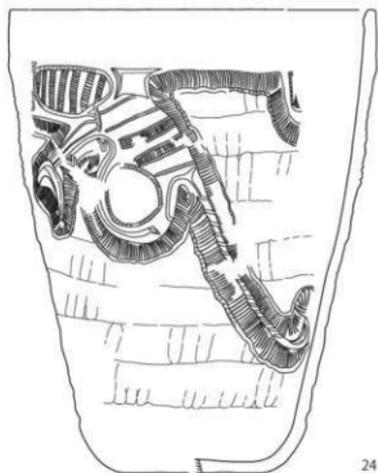
0 (1:40) 1m

2・3号土坑のみ  
0 (1:60) 1m

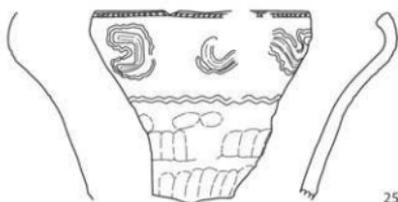
第7図 土坑断面図



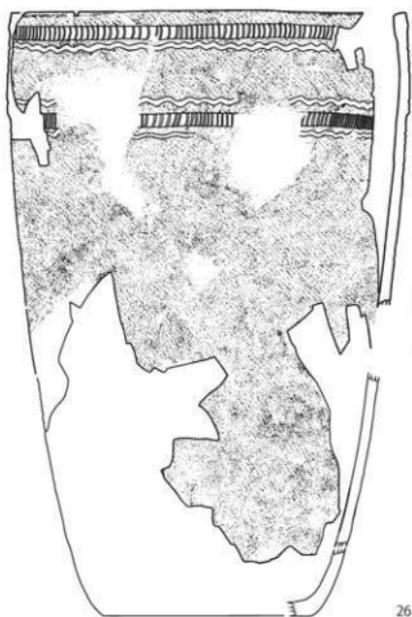
第8図 遺物



24



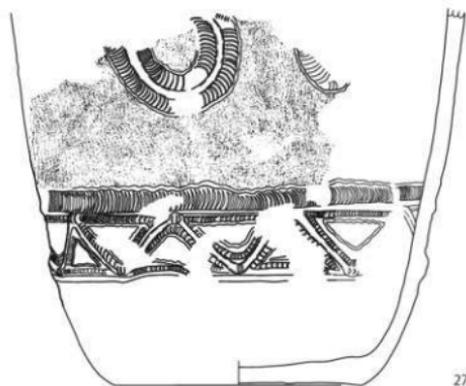
25



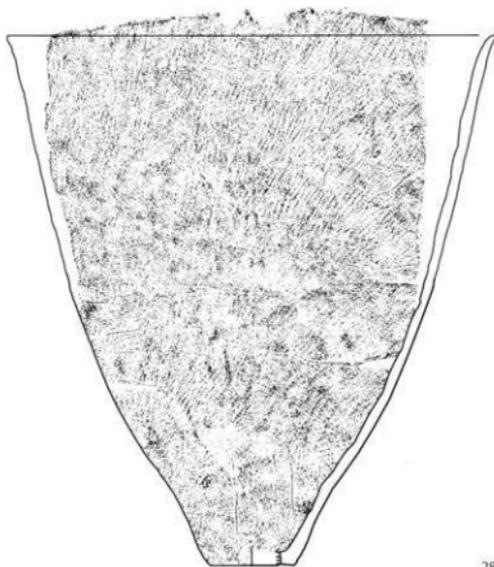
26

第9図 遺物

0 (1:4) 10cm



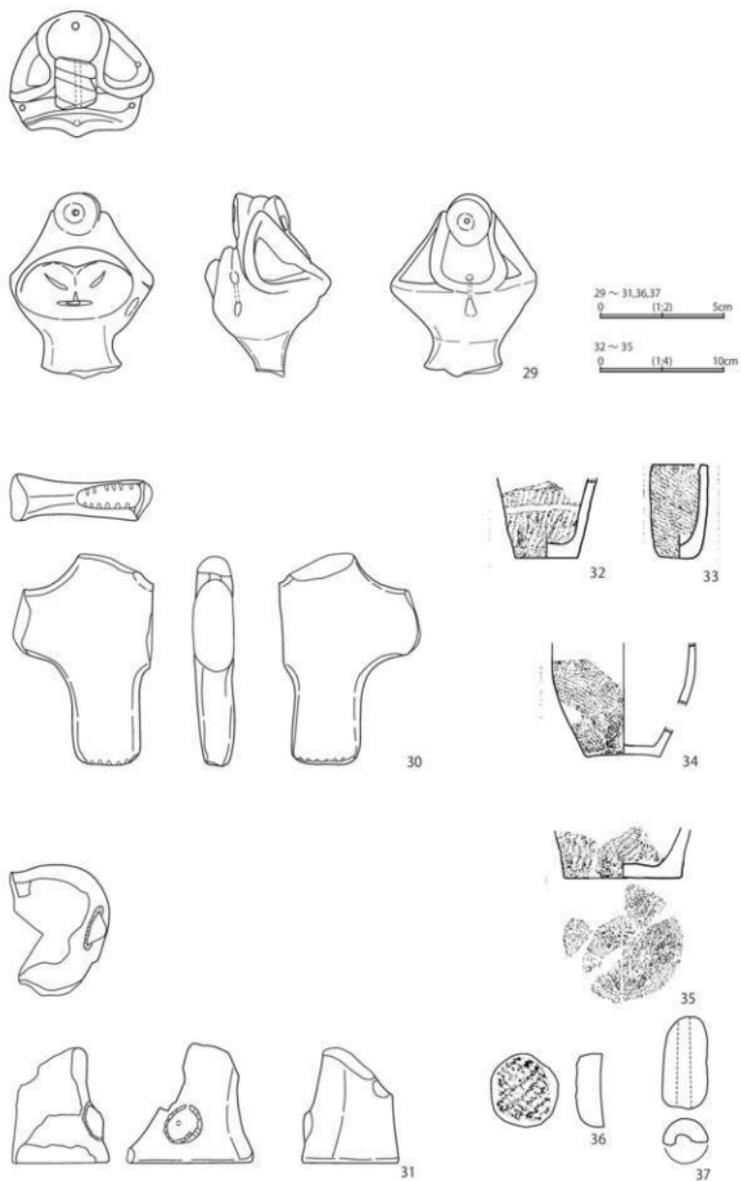
27



28

第10図 遺物

0 (1:4) 10cm



第11図 遺物



2号住居遺物出土状況（東から）



2号住居出土遺物



3号住居遺物出土状況（南から）



3号住居出土遺物



2号住居完掘状況（東から）



3号住居土偶出土状況



2号溝完掘状況（南から）



3号住居遺物出土状況（北西から）



3号住居床面遺物出土状況(北東から)



4号住居遺物出土状況(西から)



4号土坑遺物出土状況



3号住居土偶頭部出土状況



4号住居遺物出土状況(南から)



16ピット遺物出土状況(南西から)



A トレンチ遺構完掘(南から)



B トレンチ遺構完掘(南から)





24



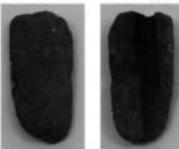
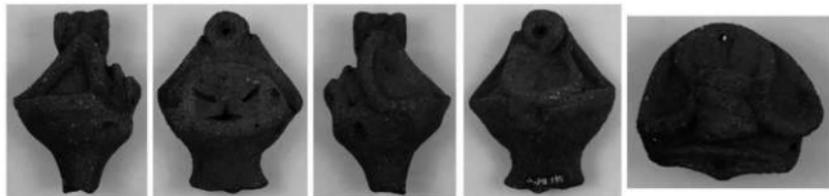
26



27



28



## 2 西畑 A 遺跡

- (1) 所在地 甲州市塩山赤尾 667-2,668-1
- (2) 調査面積 約 30.8㎡
- (3) 調査原因 宅地造成
- (4) 調査期間 平成 25 年 6 月 5 日～8 月 23 日
- (5) 調査結果

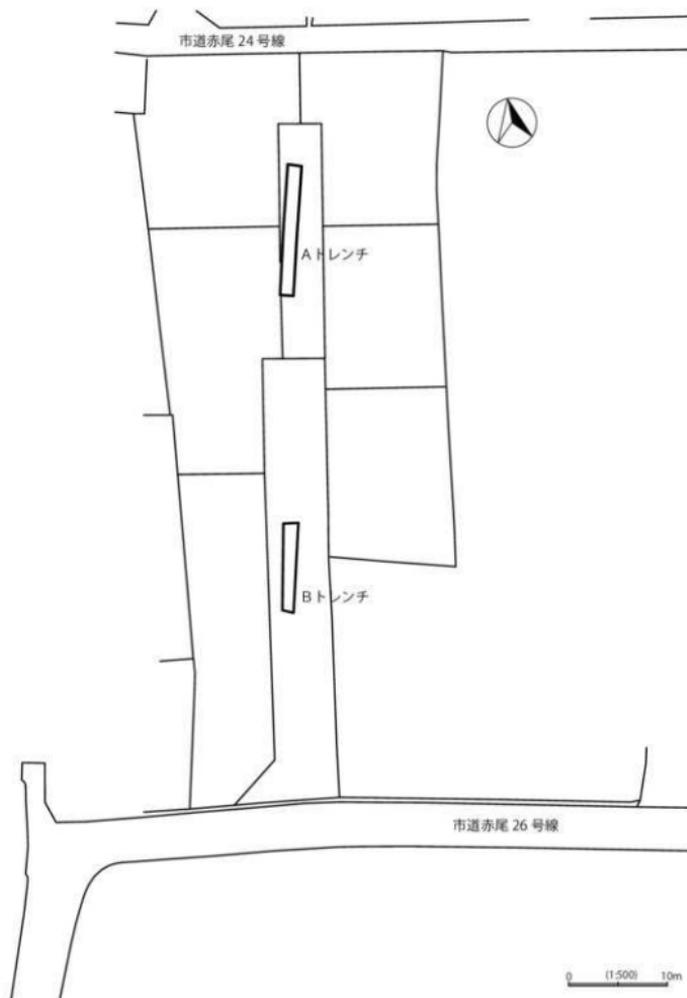
当地は、西畑 A 遺跡の包蔵地内に含まれ、平安時代・中世の遺物散布地となっている。現状は更地であるが、地表面を観察すると土器片等を発見することができる。進入路の建設が予定される範囲内に、南北方向の試掘坑（トレンチ）を 2 箇所設定し、調査を行うこととした。北側のトレンチを A トレンチ、南側のトレンチを B トレンチと呼称する。

A トレンチは約 12.8m × 1.4m で設定した。重機により地表下約 60cm の深さまで掘削したところ、拳大～直径 50cm 以上の礫層を検出した。この層より深く掘削することが困難であり、また、人為の影響がみられない地山層であると判断したため、この面で遺構確認を行なった。その結果、遺構・遺物とも検出されなかった。

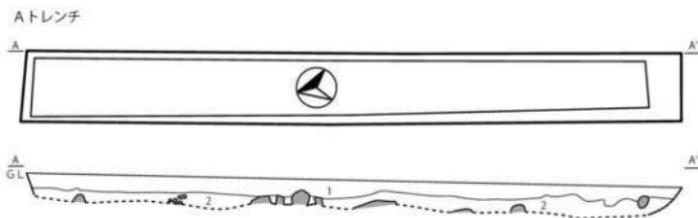
B トレンチは約 8.8m × 1.5m で設定した。重機により地表下約 60～70cm の深さまで掘削したところ、溝状の掘り込みと土坑状の掘り込みを確認した。溝状の掘り込みは南西～北東方向に走り、調査区内で長さ約 3m、両端は調査区外に延びる。深さは掘り込みを確認した高さから最も深いところで約 70cm を測る。遺物は縄文土器、土師器などの土器片や鉄製品などの小破片、銭貨などが出土している。

土坑状の掘り込みは直径約 50cm で、調査区外に延びる。深さは約 30cm を測る。土坑の底面から直径 10～20cm 程度の礫が検出されたが、これは地山の地層に含まれている礫と考えられる。遺物は縄文土器、土師器などの土器片が出土している。これらの掘り込みは、近現代の遺物こそ含まれていなかったものの、土層の堆積状態から擾乱と判断した。出土遺物も時代幅が大きいことや、表面の磨耗の具合から流れ込みと考えられる。

調査の結果、当地内からは遺跡と判断できるような遺構・遺物を検出できなかった。A トレンチの調査結果から、敷地の北半については砂礫層が展開しているものとみられ、遺跡が存在する可能性は極めて低いものと考えられる。一方、B トレンチのある敷地の南半については、遺構は見られなかったものの、縄文～近世の遺物が検出されており、A トレンチ地点よりも遺跡の本体に近接した状況を示していると考えられる。

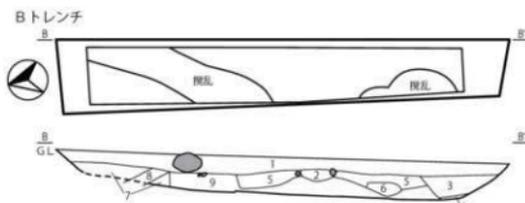


第1図 調査区位置図



Aトレンチ

1. 表土
2. 明褐色砂層 しまり強、粘性弱、拳大～直径 50cm 以上の礫を含む、地山層。



Bトレンチ

1. 表土
2. 明褐色礫層 拳大の礫を主体とする。
3. 暗褐色砂質土 しまり弱、粘性弱、礫を多量含む。
4. 暗褐色砂質土 しまりあり、粘性弱。
5. 暗褐色砂質土 しまりあり、粘性弱。
6. 暗褐色砂質土 しまり弱、粘性弱、礫を多量含む。
7. 暗褐色砂質土 しまりあり、粘性弱、攪乱。
8. 明褐色砂層 しまりあり、粘性弱、攪乱。
9. 明褐色砂層 しまり強、粘性弱、拳大～直径 50cm 以上の礫を含む、地山層。

0 (1:100) 2m

第2図 A・Bトレンチ平断面図



Aトレンチ土層断面（北東から）



Aトレンチ地山面検出状況（南から）



Bトレンチ土層断面（北東から）



Bトレンチ遺構確認状況（北から）



Bトレンチ土坑状掘り込み（攪乱）（東から）



Bトレンチ1号溝状掘り込み（攪乱）（北から）

### 3 本立寺跡

- (1) 所在地 甲州市勝沼町休息 1526-1
- (2) 調査面積 約 27.1㎡
- (3) 調査原因 販売所建設
- (4) 調査期間 平成 25 年 9 月 6 日
- (5) 調査結果

当地は、北の鬢柳川・南の田草川に挟まれた微高地上にあり、近世の包蔵地である本立寺跡に近接している。この地にはかねてから共選所が存在したが、施設の建て替え工事が計画されたために、建設予定地内における遺跡の存在を確認することを目的とした試掘調査を実施することとなった。試掘坑（トレンチ）は販売所が新たに建設される予定地点に設定した。

トレンチは南北方向に約 14.3m × 1.9m で設定した。地表下約 1m の深さまで掘削したところ、トレンチ中央部分で、地山と考えられる明褐色の砂層を検出したため、この面で遺構確認を行った。

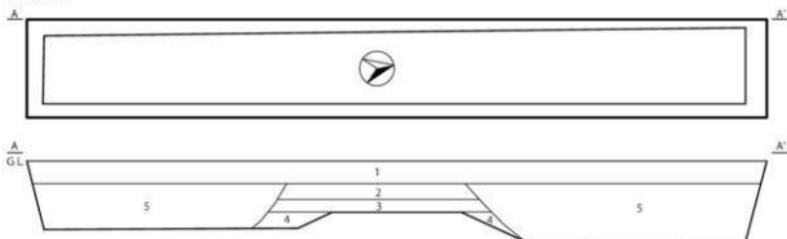
調査の結果、遺構は検出されなかった。遺物はトレンチ内から土師器環の破片を 1 点検出したが、磨耗しており、流れ込みと判断される。また、土層断面を観察すると、トレンチの北・南側の表土直下から円礫や砂を含む砂質土（5 層）が堆積しており、これらは河川に由来する堆積物と考えられ、旧観は沢状地形であったことが窺える。

トレンチ内から遺構は確認されず、また若干の遺物は流れ込みと推定されることから、調査地点およびその周辺に遺跡は存在しないものと考えられる。



第 1 図 調査区位置図

Aトレンチ



Aトレンチ

1. 表土 しまりあり、粘性あり、小礫多量含む。
2. 灰褐色砂質土層 しまりあり、粘性あり、小礫微量含む。
3. 暗褐色砂質土層 しまりあり、粘性やや強い。
4. 明褐色砂層 しまり弱い、粘性弱い、地山。
5. 暗褐色砂質土層 しまりあり、粘性弱い、下層を多量に含む、砂粒含む。

0 1:100 2m

第2図 Aトレンチ平面断面図



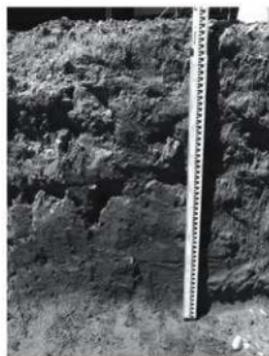
遺構確認状況（南から）



土層断面（南東から）



土層断面・攪乱部分（東から）



基本土層断面（東から）

#### 4 金山遺跡

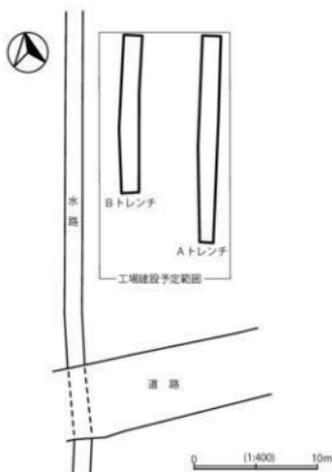
- (1) 所在地 甲州市塩山上井尻字横溝 949-1
- (2) 調査面積 約 44m<sup>2</sup>
- (3) 調査原因 工場建設
- (4) 調査期間 平成 25 年 10 月 8 日
- (5) 調査結果

当地は、平安～近世の遺物が散布する金山遺跡の包蔵地内にあたる。塩ノ山南麓に位置する向嶽寺の南西約 400m の地点に位置する。工場施設の建設が予定される範囲内に、南北方向の試掘坑（トレンチ）を 2 箇所設定し、東側のトレンチを A トレンチ、西側のトレンチを B トレンチとした。なお、建設予定地西側には南北方向に水路（開渠）が走っている。

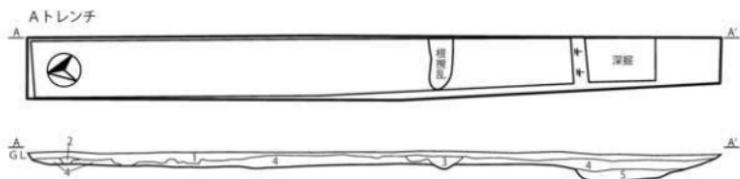
A トレンチは予定建物の主軸に沿って南北方向に約 16.8m × 1.5m で設定した。重機で地表下約 10cm の深さまで掘削したところ、暗黄褐色のローム層を検出したため、この面で遺構確認を行なったが、遺構・遺物とも検出されなかった。また、A トレンチの南側で深掘りをした結果、ローム層の下は砂層となっていた。

B トレンチも南北方向に約 12.8m × 1.5m で設定した。重機により地表下約 10cm の深さまで掘削したところ、暗黄褐色のローム層を検出したため、この面で遺構確認を行なったが、A トレンチと同様に、遺構・遺物とも検出されなかった。

A・B いずれのトレンチからも遺構・遺物は確認されなかったため、当地内には遺跡が存在しないと考えられる。また、地表面からローム層までが約 10cm と非常に浅かったことから、削平を受けているものと推測される。



第 1 図 調査区位置図



Aトレンチ

1. 表土
2. 黒褐色土層 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量含む。
3. 暗灰褐色土層 しまりあり、粘性あり。ローム粒・ブロック含む。糠跡が。
4. 暗黄褐色土層 しまり強い、粘性あり。ローム層、地山。
5. 明灰褐色砂質土層 しまりあり、粘性弱。砂質、地山。



Bトレンチ

1. 表土
2. 暗黄褐色土層 しまり強い、粘性あり。ローム層、地山。

0 (1:20) 3m

第2図 A・Bトレンチ平面図



調査前 (南から)



表土掘削



調査風景



Aトレンチ (北から)



Aトレンチ断面 (北西から)



Bトレンチ (南から)



Bトレンチ断面 (北西から)

## 5 子安 1300-1 他

- (1) 所在地 甲州市勝沼町休息字子安 1300-1,1294,1309-3,1312,1313-1,1315-1
- (2) 調査面積 約 55.3㎡
- (3) 調査原因 福祉施設建設
- (4) 調査期間 平成 25 年 12 月 11 日～ 12 月 12 日
- (5) 調査結果

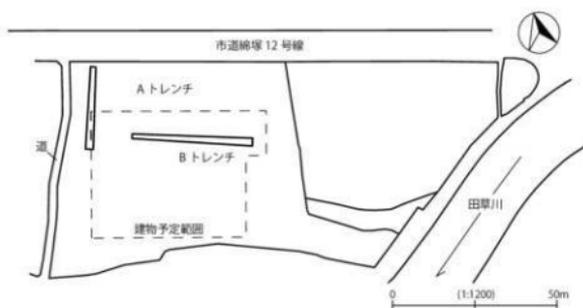
当地は、田草川右岸にあたり、南北に走る国道 411 号線に近接している。北方には古刹である立正寺や、平安時代の遺跡である大門後遺跡、坂上遺跡などの包蔵地が存在する。

調査地点は包蔵地の範囲には含まれていないが、開発の規模が 1000㎡を超える大規模なものであることから、建設予定地内に遺跡が存在するか確認するため、建設予定地のうち 1300-1 地内において試掘坑（トレンチ）を 2 箇所設定し、西側のトレンチを A トレンチ、東側のトレンチを B トレンチとして試掘調査を実施した。

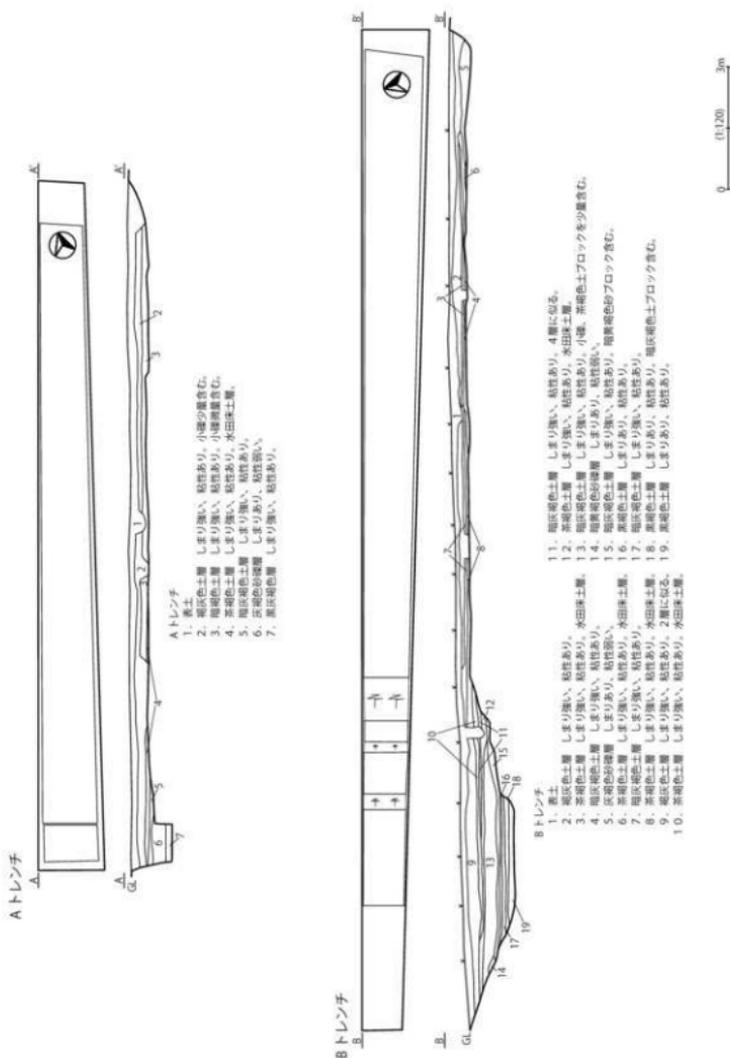
A トレンチは南北方向に約 16.9m × 1.6m で設定した。トレンチ南端を重機により地表下約 50cm の深さまで掘削したところ、自然堆積層とみられる砂礫層（6 層）を検出した。6 層より上の茶褐色土層（4 層）上面で遺構確認をしたところ、遺構は検出されず、遺物は表土中から微量の土器小破片が検出された。

B トレンチは東西方向に約 24.7m × 1.6m で設定した。トレンチ東端を重機により地表下約 30cm の深さまで掘削したところ、A トレンチで見られた砂礫層（5 層）を検出したため、A トレンチと同様に茶褐色土層（6 層）で遺構確認を行なった。その結果、遺構は検出されず、遺物は表土中から微量の土器小破片が検出された。念のため、トレンチ西端を深掘りしたところ、茶褐色土層（6 層）より下は遺物の検出もみられず、層序も安定していることから自然堆積層と考えられる。なお、深掘り部分では砂礫層は確認できず、砂礫層の堆積は部分的なものであることがわかった。

A・B いずれのトレンチからも遺構は確認されず、また若干の遺物は小破片で磨耗が著しく流れ込みと推定されることから、当地内に遺跡は存在しないと考えられる。



第 1 図 調査区位置図



第2図 A・Bトレンチ平断面図



A トレンチ断面南半 (東から)



A トレンチ断面北半 (東から)



A トレンチ深部部分 (東から)



A トレンチ遺構精査状況 (南から)



B トレンチ断面西半 (南から)



B トレンチ断面東半 (南から)



B トレンチ遺構精査状況 (東から)



B トレンチ遺構精査状況 (西から)

## 6 重郎原遺跡

- (1) 所在地 甲州市塩山中萩原 1311
- (2) 調査面積 約 17.3㎡
- (3) 調査原因 福祉施設建設
- (4) 調査期間 平成 26 年 2 月 6 日
- (5) 調査結果

当地は、重川左岸の河岸段丘上にあたり、縄文時代の集落遺跡として知られる重郎原遺跡の包蔵地内にあたる。

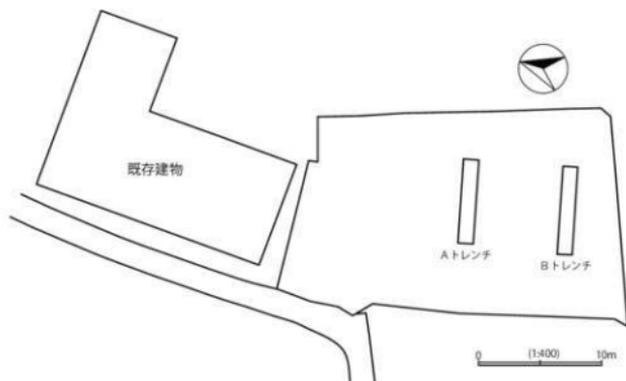
福祉施設建設予定地内に遺跡が存在するか確認するため、対象敷地内に調査区を 2 箇所設定した。北側のトレンチを A トレンチ、南側のトレンチを B トレンチとして試掘調査を行った。

A トレンチは東西方向に約 6.8m × 1.2m で設定した。地表下約 40 ~ 50cm の深さまで掘削したところ、黄褐色のローム層を検出したため、この面で遺構確認を行なった。その結果、耕作や焼き火等の攪乱が見られたものの、遺構は検出されず、遺物は表土中から微量の土器小破片が検出された。

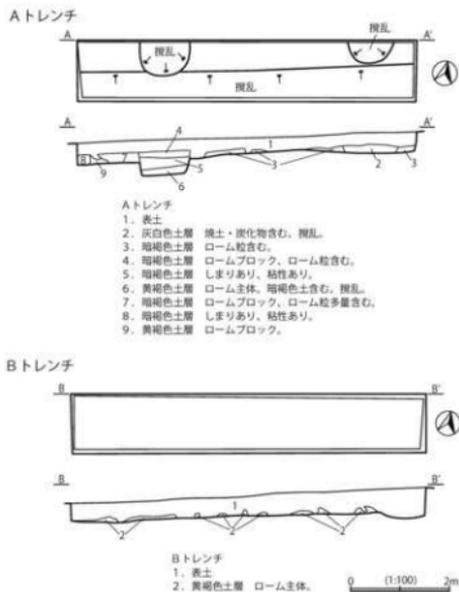
B トレンチは東西方向に約 7.2m × 1.2m で設定した。地表下約 40cm の深さまで掘削したところ、A トレンチと同様に、黄褐色のローム層を検出したため、この面で遺構確認を行なった。その結果、耕作による攪乱等が見られたものの、遺構は検出されず、遺物は表土中から微量の土器小破片が検出された。

出土遺物は A・B トレンチ両方から検出されているが、いずれも表土中からの検出であり、遺構に伴う性格のものではなく流れ込みと推定される。土器は縄文土器片、土師器片と推定されるが、小片であり年代等の詳細は不明である。

A・B いずれのトレンチからも遺構は確認されず、また若干の遺物は流れ込みと推定されることから、当地内に遺跡は存在しないと考えられる。



第 1 図 調査区位置図



第2図 A・Bトレンチ平面断面図



Aトレンチ遺構面検出状況(西から)



Aトレンチ土層断面(南西から)



Bトレンチ遺構面検出状況(西から)



Bトレンチ土層断面(南西から)

## 報告書抄録

ふりがな	しないいせきはくつちょうさとうじぎょうほうこくしょ
書名	平成 25 年度 市内遺跡発掘調査等事業報告書
シリーズ名	甲州市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 16 集
編著者名	入江俊行
編集機関	甲州市教育委員会
所在地	〒 404-8501 山梨県甲州市塩山上於曾 1085-1 電話 0553-32-5097
発行年月日	平成 27 年 3 月 31 日

ふりがな	ふりがな	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
小山平南遺跡	甲州市塩山千野字 小山平 595-1	19213	塩 107	35° 42' 56"	138° 44' 13"	平成 25 年 5 月 7 日～ 6 月 4 日	約 99.5m	宅地造成
西畑 A 遺跡	甲州市塩山赤尾 667-2.668-1	19213	塩 49	35° 42' 5"	138° 44' 12"	平成 25 年 6 月 5 日～ 8 月 23 日	約 30.8m	宅地造成
本立寺跡	甲州市勝沼町休息 1526-1	19213	勝 69	35° 40' 34"	138° 43' 1"	平成 25 年 9 月 6 日	約 27.1m	販売所建設
金山遺跡	甲州市塩山上井尻字 横溝 949-1	19213	塩 63	35° 42' 30"	138° 43' 6"	平成 25 年 10 月 8 日	約 44m	工場建設
子安 1300-1 他	甲州市勝沼町休息 字子安 1300-1,1294, 1309-3,1312, 1313-1,1315-1	19213	なし	35° 40' 27"	138° 42' 54"	平成 25 年 12 月 11 日～ 12 月 12 日	約 55.3m	福祉施設建設
重原原遺跡	甲州市塩山中萩原 1311	19213	塩 136	35° 43' 40"	138° 45' 44"	平成 26 年 2 月 6 日	約 17.3m	福祉施設建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
小山平南遺跡	散布地	縄文・平安	竪穴住居、溝、土坑	縄文土器・土師器・須恵器・石器	
西畑 A 遺跡	散布地	平安・中世	なし	縄文土器・土師器・鉄製品・銭貨	
本立寺跡	寺跡	近世	なし	土師器	
金山遺跡	散布地	平安・中世・近世	なし	なし	
子安 1300-1 他	包蔵地外		なし	土器小片	
重郎原遺跡	集落	縄文	なし	土器小片	

山梨県甲州市

平成 25 年度 市内遺跡発掘調査等事業報告書

2015

編集 甲州市教育委員会 生涯学習課

住所 山梨県甲州市塩山上於曾 1085-1

電話 0553-32-5097

発行 甲州市教育委員会

発行日 平成 27 年 3 月 31 日

印刷 株式会社 峽南堂印刷所

